GLO：新日本総力機構

勇退世代と自立世代をつなぐ世代継承で新しい日本を築く

INDEX
目 次

＜GLOとは＞

GLOとは 2

GLOの三大原則 3

＜GLO：新日本総力機構とは＞

GLO：新日本総力機構の目的 4

人格主義の確立 6

GLO：新日本総力機構が目指す人生の全体像 9

GLO：新日本総力機構が目指す教育の根幹 10

＜緊急課題＞

GLO：新日本総力機構が緊急に取り組む課題 11

＜具体的取り組み＞

サバイバル態勢 13

勇退世代と自立世代をつなぐ（世代継承） 13

大地震が日本を襲う危険性 17

人生の最後を飾るホテルと実学学園 18

GLOとは

まず、GLOとは Government-Like Organization の略であり
政府の責任感を持って新しい日本を目指そうとする民間組織の形態です。
GLO：新日本総力機構、GLO：建国維新総合研究所、GLO：人格投資センターが
あります。

国内問題に対しては民間レベルの活動でも解決の可能性がありますが
昨今のような領土問題など国際的な問題に対しては
民間組織では充分に対応できません。
だからといって政府の責任を追求するだけでは
単なる批判者あるいは単なる評論家となってしまいます。
特に民主主義制度においては国民こそが主人であり、
国難の解決も民間から提示されるようでなければ
責任ある国民とは言えません。
民間ならいろんな試みや挑戦が可能であり、
他のどの試みよりも立派な成果が上がれば
その成果を根拠として国に提案することができます。
政府の責任感を前提として国家の未来を真剣に考える民間組織をGLOと呼びます。

GLOの三大原則

<GLOの三大原則>

①暴力やテロなど過激かつ極端な思想や行動は排除する	人間性の重要視
②個人や団体の利益を目的とする参加は排除する	公益性の重要視
③偏狭な国家利益優先主義は排除する	国際性の重要視

かつて狭い国土のこの日本でさえ
多くの勢力に分断され争いを繰り返してきました。
日本の中に国境が多く存在していたのです。
やがて日本全体が1つの国家としてまとまらなければ
対応できない時代へと進んだのですが、いつの間にか
世界は国家と国家の利害の衝突の場となってしまいました。
国家の利己主義がぶつかって二度の悲惨な世界大戦を人類は体験しました。
国境を超えた政府があればなんとか紛争を解決できるのではと
世界政府としての国連に期待を寄せるようになりました。
残念ながらその国連も世界平和の切り札とはなっていません。

国家としての道理と
世界のどの国も幸せになる権利を等しく持っているという道理を
見事に調和させる知恵を模索しなければなりません。
それは今なお残されている大きな課題です。

世界平和をスローガンにしているからと言って正しい運動であるとは言えません。
テロリストでさえ世界平和を願って活動しています。
彼らから見れば
それ以外に平和をもたらす道がないと思い込んでいるだけなのです。
どんなに世界平和を願っているとしても、
これだけは踏み外してはいけない最低条件が明記されていなければなりません。
そのためにGLOには三大原則が定められています。

なおGLOの理事は報酬なしの完全奉仕とします。
多くの善意を結集するにはそうあるべきだと考えます。

GLO：新日本総力機構の目的

世界の問題を解決しようとすれば、
まず日本の問題を解決して見せなければなりません。
自国の問題を解決する力も持たずに
世界の問題を解決することはできません。
特に最近の日本が直面する課題のひとつに領土問題があります。
中国は尖閣諸島のみならず、沖縄までも中国の領土であると主張しています。
韓国は竹島、ロシアは北方領土、北朝鮮は日本国民拉致問題が
厳然として存在しています。
ロシア大統領は北方領土を訪問して、
「日本人は酒が喉を通らないほど悔しがっているだろう」と述べ、
韓国大統領は竹島を訪問して、
「日本は昔の日本と違うから恐れるに足りない」という趣旨の発言をしました。

堂々たる論拠に基づく発言というより、
「日本の悔しがる姿こそが痛快だ」といささか大人げない動機が見えます。
「日本が元気な間は適当に付き合い、力を失ったら強く出よう」では
あまりにも品格がないと言わざるを得ません。
世界で日本ほどお人好しな国家は存在しないのではと思われます。
韓国の教科書には、
「竹島は韓国領土である」と
明記し啓蒙教育を行なっています。
国家としてどう考えるかを間違っているとしても明示しています。
国民はその尺度を中心に物事を考えるようになります。

では、日本は果たしてどのような教育をしているのでしょうか。
国家の意志、国家のビジョン、教育の理想像はどこにあるのでしょうか。
その欠如が日本をあいまいな国家にし、
日本は何でも通る国家として誤解を与えています。
強く出れば何でも通る国家として足元を見られています。
不合理な主張は良くありませんが、譲歩してはいけない正義もあるはずです。
死んでも守るべき哲学を持たない日本で良いのでしょうか。
GLO：新日本総力機構はまず、
国家のビジョンを明確にすることを最初の目標とします。
そのビジョンに基いて新しい教育システムを再構築します。

日本人とか中国人とかアメリカ人とか区別する以前に私たちは人間です。
等しく権利と義務を持ち、それぞれ幸福を享受する権利は
相互に尊重されなければなりません。
まず人間とはなにか、
人間はどうあるべきかの定義を明確にしなければなりません。
それから初めて教育が可能となります。
GLO：新日本総力機構は独自に掲げた「理想的人間像」を目指して
新しい教育を開始します。
GLO：新日本総力機構の趣旨に賛同するある企業が
既にモデルとしての施設を準備しました。
その趣旨をご検討の上、
多くの組織、団体、個人の参加を期待します。
GLO：新日本総力機構はその名の通り総力を上げて、
新しい日本を築くべく尽力します。

活動の第一歩は明確な理念を提示し、
その理念を柱として教育制度を整えることから開始します。
世界に誇れる日本人を生み出すべく総力を上げます。

人格主義の確立

いじめも解決できない今の教育制度や学校制度に期待するには無理があります。
民間の知恵を結集して新たな教育を目指して
大いなる挑戦を試みることから開始します。
GLO：新日本総力機構が総力を上げて造ろうとする
新しい人材育成教育制度の根幹は一言で言えば人格主義の確立です。
人間性豊かな人格育成を国家再建の柱とします。

①個人人格の確立

豊かな人間性教育を基本とします。
その三要素として
真実、誠実、結実　を上げます。

真実　常に真実を極める努力を惜しまない人間に育てます。
誠実　真心を持って人に接することのできる人間に育てます。
結実　誰もが絶賛する結果を出せる人間を目指します。

別の視点から見た三要素です。
実学、実践、実力　です。

実学　学問の為の学問ではなく生きた学問を身につけることを優先します。
実践　頭で学んだことを徹底的に実践して身に付けるように指導します。
実力　自由自在に応用出来る能力を磨き、実力アップを目指します。

自立能力の育成、逆境に負けない人間の育成、弱者を助ける人間性、
強者に媚びたりへつらったりしない人間の育成を目指します。

②家庭人格の確立

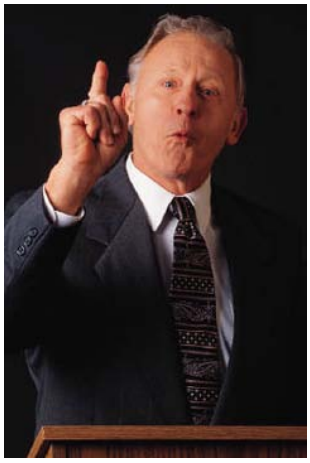
個人人格の成熟した男女が結婚して夫婦となります。
夫婦一体で醸し出す人格を夫婦人格と呼びます。
やがて子供が誕生すれば夫婦は父母となります。
親として子供に対する人格を父母人格と呼びます。
個人人格、夫婦人格、父母人格の総合体を家庭人格と呼びます。

家庭は過去、現在、未来が含まれており同時に国家や世界の原型です。
祖父母は過去を代表し、父母は現代を意味し、子供たちは未来を意味します。
国家や世界も人間の集まりであり、その人間はあくまでも家庭から誕生します。
すべての基本は家庭です。

さて、人間の持つ創造力が
文化を生み出し、産業を発達させ、今や宇宙時代を築きました。
その全ては人間が存在してこそのことであり、
その人間の存在は誕生から始まります。
その誕生の原点は結婚にあります。
男性と女性が存在する最大の理由は結婚にあります。
結婚により人間は誕生し、その人間によってあらゆるものが生み出されました。
結局、結婚は人間の関わるすべてを生み出す究極の原点と言えます。
アインシュタインは偉大な科学者ですが、
そのアインシュタインも結婚抜きに誕生することはできませんでした。
家庭こそが文化、産業すべての基地と言えます。

GLO：新日本総力機構は
立派な子供の育成を最優先課題として捉えます。
家庭こそが立派な社会、国家、世界を生み出す重要基地です。
立派な世界は立派な国家によって構成されます。
立派な国家は立派な家庭によって構成されます。
立派な家庭は立派な人格を持つ一人の男性と一人の女性の
結婚によって形成されます。
結局、
すべての基本は如何に立派な個人を育成できるかにかかっていると言えます。
繰り返しますが、その人格の基地は家庭であると考えます。

③社会人格の確立（公益人格）



社会の役に立てる人間となるにはまず公徳心教育が重要です。
次に、社会のニーズに対応できる
実力養成教育（想像力と創造力を磨く）が重要です。

人格の定義を拡大すれば国家人格、世界人格という概念が生まれます。
経済が発展しても国家人格が駄目なら恥ずかしいことです。
お金があっても人間性が駄目なら尊敬されないのと同じです。

人間によって構成される全ての組織団体はそれぞれの人格を持っています。
企業人格、団体人格など無数のレベルの人格が存在します。

国家の指導者になるにはその個人人格が
国家人格に対応できなければなりません。
家庭人格や社会人格における失格者が
国家を正しく導けるはずがありません。
従って国会議員に立候補するなら
家庭人格、社会人格で高く評価された実績が必要です。
村の運動会に優勝できない人をオリンピックに参加させることはできないのです。

軍事大国、経済大国と呼ばれてもそこに人格を感じることはできません。
腕力があり、お金があれば立派な人と呼ばれるでしょうか。
やり手とか手腕家と呼ばれるだけのことです。
人格が立派であることが前提となって後に、
やり手であればそれは絶賛の対象となりますが、
人格が乏しければ恥ずかしいことです。

日本は人格大国を目指します。
人間として高く評価されることを基本とし、その人格の版図を広げます。
その後に経済大国などの呼称がついて来るようになれば理想的です。
そのような国家として日本を再構築すべく
GLO：新日本総力機構は設立されました。

GLO：新日本総力機構が目指す人生の全体像

GLO：新日本総力機構が目指す人生の全体像を明確にします。

●人生をオーケストラに例えて理解します。

各楽器はそれぞれの個性を最大限に発揮しそれぞれ自己主張します。
その上で見事なハーモニーを醸し出し、感動を高めます。
その結果として、聴衆の絶賛と拍手があればクライマックスとなります。

これがGLO：新日本総力機構の目指す社会モデルです。
①個人の自由を尊重しそれぞれの個性を思う存分発揮しながら
②見事な調和がより大きな感動となり、その結果として
③第三者の絶賛を受ける

この三要素が揃ってこそ理想的なモデルとなると捉えます。
それぞれの立場は違っても感動を共有することが基本となります。

●人生を三段階に分けて捉えます。

自立人生	親や社会の恩恵を受けながら一人前を目指す人生です。 成人、結婚、職業の三つが基本要素となります。
現役人生	家庭に責任を持ち社会に貢献する人生です。
勇退人生	築き上げた全てを次世代に受け継がせる人生です。

●世代継承を重要視します。

人生の三段階はそれぞれ「過去、現代、未来」と深く関連します。
過去の相続は　　自立人生で成され
現代責任は　　現役人生で果たし
未来への信託は　勇退人生の最大の責任となります。

要約すれば
「過去に学び、現代に責任を持ち、未来に託す」
「過去に感謝し、現代から感謝され、未来に感謝の種を蒔く人生」
となります。

GLO：新日本総力機構が目指す教育の根幹

若い内に人生の全体像を確立させることを教育の指針とします。

●自立責任を教える（使命を知り、使命に生きる重要性）

真実を究め貫くことの出来る強靭な精神を育てる。

逆境に強い人間に育てる（食、衣、住）

可能な限りの自前主義（究極のサバイバルを目指す）

食　地産地消、自産自消、安心安全食

衣　古着もリサイクルして大事に使う

住　省エネ、リサイクル、エネルギー自立

●公的責任の重要性を教える

（受ける人生から与える人生へ成長し現役責任を果たすことを教える）

誠実な生き方の重要性（弱者をいたわり、強者に媚びない）

人格を根拠として最良の伴侶を見出し幸福な家庭を築く重要性

立派な子供を育成することこそが重要であることを教える

家庭の親、社会の親、世界の親を目指し、より高い人格を目指す

●世代継承が人生の最終段階の責任であることを教える

（勇退人生では自立世代に全てを受け継がせることが使命であることを教える）

知恵、技術、財産を次世代に受け継がせることの重要性を教える

GLO：新日本総力機構が緊急に取り組む課題

国家ビジョンを確立することによって
教育の目標を明確にし、実行する。（既に動き始めています）
まずは家庭伝統を打ち立てることに全力を投入する。

国家の基礎である健全な家庭再建に全力を投入する

①正しい親子関係の再構築

立派な子供を生み出し育てることが国家の未来を築く基本である
という認識を広める。
（反省：戦後、子供にかけるウエイトが下がってしまった）

②結婚の幸せと子供を育てることの幸せの再認識

少子化を防ぐには家庭が健全になるしかない
（反省：戦後、自分の繁栄、趣味に心を奪われて子供に価値を置かなくなった。
年金制度の思わぬ弊害として国家が面倒を見てくれるなら大変な
子育てに真剣になるより自分に投資しようと考えるようになった）

③経済最優先価値観から人格最優先価値観への転換を図る

経済さえ豊かになれば誰もが幸福になれると思い込み、
いつのまにかもっと大事な家族の絆や人間関係を失ってしまった。
お金では買えない幸福があることを再認識しなければならない。
正義や愛情はお金に換算されてはいけないし、お金の影響を受けてはいけない。
一番大事なものはお金では評価できない。
大量消費こそが幸福であるという価値観に人類が暴走すれば
もはや地球自体が崩壊する。
競争原理の弱肉強食が過度に進み、心がすさんでしまった。

以上の認識を前提として、GLO：新日本総力機構はまず
勇退世代と自立世代が見事に補完しあえる体制を目指して突き進んでいます。

緊急課題：勇退世代の生産力の急激な減少
戦後を築いた勇退世代の知恵と技術と資産が受け継がれずに消えて行こうとしている。

緊急課題：若い世代の無力化
仕事もなく、夢もなく、全てにヤル気を失いつつある。

緊急課題：国力の弱体化
日本の弱体化を襲いかかる絶好の機会と捉える国々が存在する。

この三つを一気に解決する道をGLO：新日本総力機構は提唱します。

GLO：新日本総力機構の具体的取り組み

サバイバル態勢を整えて現状に対応し、
勇退世代活躍の場を提供して過去資産を活かし
若者活性化対策によって日本の未来を開く

サバイバル態勢

環境的な変化、国際的な緊張などによる予期せぬ事態が発生しても
最低の被害で済むようにサバイバル態勢は常時整えておくべきです。
GLO賛同企業によって既に進行中です（北海道千歳：マザーランド）

●最低の食料確保（安心安全の食糧確保）
●農業技術の若者への移行（現状：日本の農業従事者平均年齢66才）
●学校教育の一環とする学生の農業支援カリキュラム化
　除草剤なしの農業が可能となる
　農業に対する体験と知識が広がる
　安心安全な食糧確保が可能となる

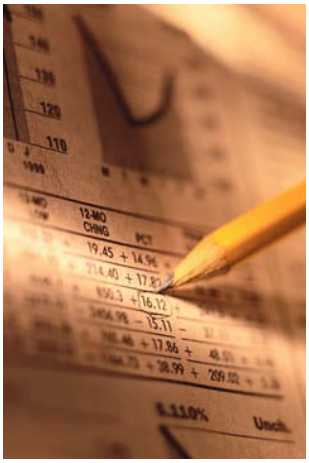
勇退世代と自立世代をつなぐ（世代継承）

●勇退世代の老後保障を前提とする勇退世代資金の活用
　（日本の資産1500兆円の内950兆円は60才以上の高齢者が所有）
　若い世代は勇退世代の老後に責任を持ち、
　勇退世代の資金は若い世代の育成に活用する。

●若い世代に対する建設的価値観教育の緊急的重要性
　しっかりした考えを抜きに単なる支援をしても無意味

●国家制度の全面的活用と制度変革の必要性
　（勇退世代資金の効果的活用と老後生活保障の両立を目指す）

GLO：新日本総力機構は
勇退世代と自立世代を効果的に連携させる大きなプロジェクトを推進します。
まず、戦後を築き上げ莫大な資産を所有しながら
現役を引退する勇退世代が抱えている課題について考えます。
かつての元気な日本がどこかに消えてしまった現実において
老後の生活を考えると頼れるのは資産しか無いと考えるのは当然です。
その一方で若い世代は甘やかされて育ったために、
精神力は弱く、仕事もなく、ハングリー精神も乏しく
未来に対して全く希望を持てなくなっています。
その事がまた勇退世代から見て
頼りにならない子供では
「ますます、手持ち資産に頼るしかない」と思うようになります。
若者に元気がないことは日本に未来がないことを意味します。
また、そのような若者にしてしまったのには、
勇退世代にも大きな責任があります。
子供たちをしっかりと育てようと
未来を見据えた考え方を持たず、
その時だけが良ければと自分の満足だけに心を奪われてしまったのです。
しっかりした子供を産み育てずに国の未来などありえません。
つばめも鮭もその生涯の究極的な目的は
如何に立派な子孫を残すかだけを考え
涙ぐましい努力をしています。
万物の霊長を自負する人間が、その事を忘れてはいけないのですが、
戦後の日本はいつの間にか忘れてしまいました。
極端な少子高齢化は自然現象ではなく、
日本人の洞察力の欠如が招いたものです。
しかし、過去を分析し現実を嘆いてばかりいても仕方ありません。
日本の歴史は今後も続きます。



もう限界ギリギリです。
今のうちに、未来を見据えた対策を打たなければなりません。
国民の総力を上げて、
若者が未来に希望を持つことが出来るようにし、
結婚に夢を持てるようにし、
たくさんの子供を産み育てたくなるように
流れを変えなければなりません。

アメリカを筆頭とする市場原理主義、自由競争マーケット主義は
既にボロボロになっています。
競争原理至上主義は、
日本古来の和の精神、助け合いの精神、安全な国のイメージをも
破壊してしまいました。

人格を無視した経済優先主義が暴走しています。
実体の価値を無視して「お金でお金を稼ごう」とする風潮が蔓延しています。
今こそ、人格を優先した紳士的な体制が求められています。
「足ることを知る、人間性を根拠とした幸福感」でなければ
地球環境は持ちません。
環境の逆襲が既に始まっています。
竜巻が襲いかかり、考えられない集中豪雨が
想定外という言葉で処理しきれなくなりつつあります。

GLO：新日本総力機構は緊急に取り組みます。
まず、若い世代が勇退世代に尊敬と感謝の念を持って
勇退世代の老後のサポートに全力を投入できるようにします。
GLO：新日本総力機構がその体制を整えつつあります。
勇退世代が安心な老後生活に不安がなくなれば
その為に保管している資産に対する依存度が薄れます。

死ぬ予定日がはっきりしていれば余生資金活用の方法も確定できますが
死ぬ日を予定できないため少しでも資産は残しておこうと考えるしかありません。
余生資金として蓄えていても大半の資金は
使われないまま残されることも多いのです。
もちろん、使いきるまで贅沢をして、資金をゼロにして
死を迎えようという老人もいるとのことですが
若者たちの現状を見てそれが良い選択と言えるでしょうか。

福島原発行動隊があります。
「未来ある若者に放射能を浴びせるくらいなら、
あとは死を待つだけの高齢者が放射能を覚悟して犠牲の道を行き、
未来に希望を残しましょう」と訴えたところ
500人以上の人が応募してきたということです。
このような立派な精神を持つ勇退世代も実在しています。

ある神奈川の女性は10億もの資金を子供たちの教育に役立てばと
寄付を申し出ました。
日本人の良き精神は今なお健在に残っています。
振り込め詐欺で大変な被害が出ていますが、
息子を演じる涙の訴えに何とか応えて上げたいと考える高齢者が
多いことも事実です。
それだけの資金を持っているという事も事実です。
善意を食い物にする行為は絶対に許せませんが、
困っている人をなんとか助けたいという優しさと資金力が
まだ実在している実証です。
このような資金が日本の未来の為に活用されないとすれば恥ずかしいことです。

大地震が日本を襲う危険性

あらゆる視点から考えて日本に大きな地震がやってくることは
避けられないようです。
３.１１の記憶があまりにも強烈なだけに戦慄を覚えます。
大都会は便利で最高の環境と長い間考えられてきましたが
今ではその考え方は覆されました。
高層階よりも低層階、海岸沿いよりも内陸、
今の地図ではなく古地図で液状化対策など
まったく考え方が様変わりしました。
大都会では地震だけでなく二次的な災害が恐れられています。
火災の危険、爆発、交通遮断など予想できない事が
連続的に襲い掛かります。
仕事などでどうしても都会にいなければならない人はともかく、
お年寄りや幼い世代は
可能な限り地方の安全地帯に移動することが重要となっています。
また、資産価値も一瞬にしてゼロになります。
価値ある内に未来への投資に回せば最高の使い方ができます。
便利だと思われた大都会が一瞬にして不便で危険なエリアと変貌します。
当たり前と思われた食糧が調達不能となることもありえます。
生命のかかった選択です。「まあまあ大丈夫」といった判断は避けるべきです。
このような観点からも、
勇退世代と自立世代は安全で自然豊かな地方都市で
共に助け合うべきだと当機構は考えます。

最悪に備えて、GLO：新日本総力機構は食糧自給生産農場を既に手がけています。
国民が一丸となってこの国難を乗り切る必要があります。
モデルが成功すればその成功例を一気に全国展開することも可能となります。
日本人の心を今一度復興させましょう。日本人の和の美徳を復興させましょう。

人生の最後を飾るホテルと実学学園

GLO：新日本総力機構は若者の為に資産を貢献してくださった方々が
最後の日を迎えるまで
感謝を込めて責任を持てるように環境を整えつつあります。
第一弾としてあるホテルを買い取り準備しています。
老人ホームは営利事業でありあくまでも商売ですが、
当機構は人格と人格の信頼を土台としてのお付き合いを根底においています。
利益追求には関心がありません。
利益を追求して未来を失う位なら、
利益を無視して未来に希望を残したいと考えます。
そのような心を結集するためにGLO：新日本総力機構があります。
希望に溢れた未来をつくり上げようと
志を同じくする同志としてのお付き合いとなります。

御存知のように、日本のホテル経営は非常に厳しい状況です。
一流ホテルでさえ廃業に追い込まれており、
既に廃墟となっているホテルもあります。
ホテルを抱えているだけで大変な赤字となれば直ぐにでも手放したくなります。
せっかくの環境と施設が廃墟となってゆくのは忍び難いことです。
なんとか有効活用したいものです。
そこでGLO：新日本総力機構は傘下のある賛同企業に依頼しました。
その結果、ホテルを買い取り、
勇退世代の最後の人生の場とすべく環境を整えています。
若い世代が真心込めて情熱を注いでいます。
この世を去る最後の瞬間まで責任を持つ体制ができれば
人生の先行きの不安は解消します。
安心の頼みとしていた資金にしがみつく必要がなくなります。
その資金で若い世代に飛躍のチャンスを提供することができます。
もちろん、老後の心配など不要な勇退世代も多いのです。
そのような場合は
生涯かけて築き上げた資産のもっとも価値ある活用とは
何かを考えて見る必要があります。
裕福な人達の間では、
子供にはある程度だけを相続させ、
大半は社会還元するという考え方が広がっています。

自分の子供だけの親ではなく、
社会の親、国の親、あるいは世界の親として
広い心を持たなければならないと考えています。
若い世代の教育資金として、
日本復興の創業資金として、
情熱ある青年たちの挑戦資金として
活用できる方法を見出すべきです。

このアレンジされたホテルは
勇退世代の最後の人生を守る砦としてだけでなく、
新しい教育を試みる場としても活用されます。
情熱ある先生と共に
実学学園と題して挑戦を開始しています。
廃校予定の校舎を活用したいと考え
既に働きかけています。
このようにして勇退世代と自立世代が密接につながることができます。
双方に大きな希望をもたらすことは間違いありません。
ホテルの新たな活用方法として最適です。
勇退世代の生活環境として、
また、若い世代の教育環境として
更に勇退世代と若い世代の交流の場として、
更に、世代継承の場として大いに活用できます。

経験豊富な勇退世代が知恵と資金を投入してプロジェクトを立ち上げ、
若い世代に活躍のチャンスを提供することもできます。
何と刺激的な挑戦でしょうか。
若い世代は気力と体力がありますが、経験と資金がありません。
勇退世代は経験と資金がありますが、体力は日々衰え、
なんといっても人生の残り時間が多くありません。
双方はお互いに必要な存在です。
見事な世代継承を完成させたいと願っています。
企業としての存続ではなく、日本一国の存亡を考えて
緊急なる措置が必要です。
GLO：新日本総力機構の趣旨をご理解の上ご参加下さることを期待します。